

生活科における GIGA 端末を活用した授業展開



日 時：令和 3 年 1 1 月 2 6 日（金）1 4：0 0～1 6：3 0

場 所：オンライン開催

対 象：2 年 児童 8 名

授業者：村越梨紗 教諭

1 天童市立寺津小学校の特徴 学級数：8 学級、児童数 6 9 名、教員数 1 8 名

学校教育目標

あかるく かしく たくましい 子供の育成

めざす子供像

たのしく「遊び」よく「考え」自分で「選ぶ」寺津の子

平成 2 9 年度より天童市教育委員会より委嘱を受け、I C T 教育推進校として研究を進めてきた。I C T 機器の普段使いができてきている状況を生かし、授業場面の蓄積、I C T 機器及び思考ツールによる思考力の向上等を念頭に、更なる I C T 機器の効果的な活用を通して、授業改善に取り組んでいる。

一人一台タブレットを使用し、グループウェアは「ロイロノート・スクール」を主に利用している。

2 研究主題

「ともに、暮らしをつくる子供の育成」

～「I C T 活用」「探究プロセス」を視点として学びをつなぐ授業づくり～

3 単元名・目標

単元名：わたしの町 はっけん

- (1) ・寺津地区に出掛け、自分の身の回りには様々な場所があり様々な人たちが生活していること、そこには様々な仕事があり、それらの仕事に携わっている人たちがいること、それらの関係や、自分との関わりに気付くことができる。
 - ・ルールやマナーは皆で気持ちよく利用するためにあること、安全に気を付けて正しく利用することが大切であることを理解することができる。(知識及び技能)
- (2) ・寺津地域で生活したり働いたりしている人々の姿を見たり話を聞いたりする活動を通して、地域の場所や地域の人、それらが自分とどのように関わっているかを考えることができる。
 - ・誰に伝えるかを思い描きながら、伝えたいことや伝え方を選んだりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) ・地域の場所や人々に関わることへの関心や期待をもちながら、それらと繰り返し関わろうとしている。
 - ・活動の記録や振り返りなどを通して、その後の学習活動に生かしたり、自分の成長を感じたりする。(学びに向かう力、人間性等)

4 単元計画（全40時間 本時35時間目）

- ①寺津にはどんな自然や場所があるだろう。（4時間）
- ②町探検に出かける計画を立てよう。Ⅰ（2時間）
- ③町探検に出かけよう。Ⅰ（2時間）
- ④町探検に行って分かったことや見付けたことをまとめよう。Ⅰ（3時間）
- ⑤町探検に出かける計画を立てよう。Ⅱ（3時間）
- ⑥町探検に出かけよう。Ⅱ（2時間）
- ⑦町探検に行って分かったことや見付けたことをまとめよう。Ⅱ（3時間）
- ⑧町探検に行って分かったことや見付けたことを発表しよう。（10時間）
- ⑨今まで調べて分からないことを解決して、発表しよう。【本時】（11時間）

5 主に活用した機器・コンテンツ

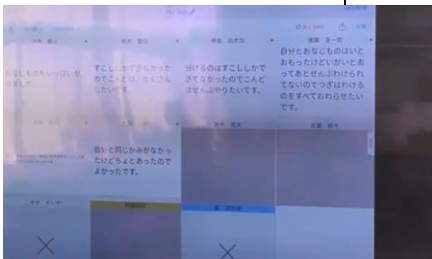
- ・一人一台タブレット（iPad）
- ・大型提示装置（大型テレビ）
- ・ロイロノート・スクールのカード
- ・Google Jamboard

6 本時の指導

（1）本時の目標

町探検を振り返り、更に詳しく知りたいことを明らかにすることで、自分たちの課題を解決する方法を考える。

(2) 指導過程

時間※ ¹	●主な学習活動	○ICT 活用ポイント、留意点	使用機器 コンテンツ	情報活用能力※ ²
導入 10分 一斉 A1	●課題の提示 前時の授業であがった疑問を確認し、この時間にやることを説明する。 ●実際に質問する内容を考える際に、何に気を付けるべきかを全体で確認する。	○大型提示装置で前時に作成した Jamboard を示す。 	・大型提示装置 ・Jamboard	A 2 ① f ステップ 1 情報の大体を捉える方法
展開 30分 個別 B1 B4 協働 C2 C3	●3～4人の班ごとに、疑問に対しての予想の答えを考える。 ●予想の答えに自信のないもの、他の人の知らないものを優先して、実際に質問する内容を決める。	○班ごとに Jamboard の疑問に対する答えを予想し、付箋の色を変えて貼り付ける。  ○似ている質問や分野によって付箋を分け、質問内容を決定する。	・1人一台タブレット ・Jamboard	B 1 ステップ 1 情報の大体を捉え、分解・整理し、自分の言葉でまとめる B 1 ステップ 1 相手を意識しわかりやすく表現する
まとめ 5分 一斉 A1 協働 C1	●本時の振り返りをする。次の時間にやるべきことも確認する。 (3人程度発表)	○ロイロノートで提出し、大型提示装置で映して全体で共有する。 	・大型提示装置 ・ロイロノート	

※1 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「学びのイノベーション事業報告書 学習場面に応じた ICT 活用事例」に基づく表記を示す。

※2 本欄におけるアルファベットおよび数字で示した記号は、文部科学省「【情報活用能力の体系表例（IE-School における指導計画を基にステップ別に整理したもの）】(令和元年度版)全体版」に基づく表記を示す。

7 県教育センター所感

- (1) たくさんの疑問を Jamboard 上にあげ、それを班ごとに相談しながら整理・分類していく過程で、本当に知りたいことを見つけていました。また、疑問に対する予想の答えを考えることで、活発な学び合いが生まれ、「主体的・対話的で深い学び」につながっています。
- (2) Jamboard の付箋や分類等がずっとクラウド上に残るので、短時間で前時の復習・確認ができ、ページを変えると他の班の進捗状況も確認できるため、質問内容の重複を避ける利点もあります。
- (3) Jamboard の操作は班で 1 人と決めていましたが、自分の考えやイメージに合わない操作に一部の児童から不満が出る場面もありました。Jamboard でまとめる際には、必要最小限のルールを設定してから始めてもよいかもしれません。